



発見!

元気な農^む山^ら漁村



むら
発見! 農山漁村の宝 (第7回応募団体)
取組事例集

【お問い合わせ先】

中国四国農政局徳島県拠点地方参事官室
〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町2丁目32番地
☎088-622-6131

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511 (代表)

徳島県

令和3年3月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和2年度）で7回目となります。

中国四国農政局管内では144件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区が選定されました。

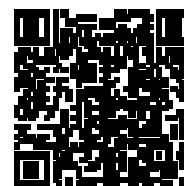
さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と2名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として12地区と2名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和3年3月

中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について	1
○ 応募団体一覧	6
○ 応募団体位置図	7
○ 応募団体の取組事例	8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）では、令和2年7月1日から9月4日までに、農山漁村活性化の取組として全国から794件（管内からは144件）の応募があり、11月4日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として28地区と個人部門として4名が選定されました。

中国四国農政局管内からは優良事例として6地区が選定され、その中からコミュニティ部門の部門賞（準グランプリ）に山口県山口市の「株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ」、ビジネス部門の部門賞（準グランプリ）に徳島県阿波市の「GOTTSO阿波」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった144件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和2年10月26日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と2名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として12地区と2名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
選定地区オリジナルロゴマーク

3. 選定地区（管内）の概要

（1）全国版選定地区（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第7回選定））

株式会社ウッドスタイル（島根県松江市）

- 丸い竹を平らにする事により「新素材」として新しいマーケットを広げ、家具や建材等に竹を有効活用。
- 竹の伐採・利用により、放置竹林の解消や石見銀山世界遺産センターの展示什器の新設など地域に貢献。



地元小学生とともに石見銀山の竹の伐採

裳掛地区コミュニティ協議会（岡山県瀬戸内市）

- 移住者の受入による地域人口の維持を主眼に、情報発信や空き家等の整備、外部との交流機会を創出。
- 地域独自の寺子屋「もかけてらこや」の開設や、小学校支援地域本部の設置を通じた支援なども実施。



移住者受入のための空き家を整備

株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ（山口県山口市）

準グランプリ受賞地区

- 6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組。
- 飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。



本取組による飼料用米を給餌する
国産鶏種「丹精國鶏」

GOTTSO阿波（徳島県阿波市）

準グランプリ受賞地区

- 地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。
- 地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、オリンピックでの納品を目指したグローバルGAPの取得を実施。



2020年度のPRポスター

木沢林業研究会（徳島県那賀町）

- シカに食害されないミツマタに着目し、生産から出荷・商品開発まで取り組み、限界集落の活力を取り戻す。
- ミツマタの新商品の開発・流通に成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。



ミツマタの白皮剥ぎ作業

愛媛県立土居高等学校情報科学部（愛媛県四国中央市）

- 地元の日本3大原産地の一つである五葉松の盆栽農家が存続の危機に直面しており、存続に向けた取組を実施。
- インバウンド盆栽ツアーの実施や、コロナ禍におけるオンラインの活用により地方創生に貢献。



インバウンド盆栽ツアープランの
商品化

(2) 地方版選定地区 (中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」)

株式会社 センコースクールファーム鳥取 (鳥取県湯梨浜町)

- 梨の木のオーナーを当初は社員を対象に募集していたが、令和元年から一般募集も開始。
- 梨の管理はプロジェクトが行い、オーナーへ生育状況をネットで配信。
- 収穫時期には収穫体験をしてもらい、収穫した梨は自宅に届け、賞味してもらおう。
- 希望に応じて青果から梨ジュースや梨ドレッシング等の加工品への交換も可能。



梨オーナーの収穫体験

里山照らし隊 (島根県雲南市)

- 独居高齢者宅や離農者が所有する田畑の草刈りを、応援者とともにを行い農村景観を保全。
- 田植えや稲刈りなどの農業体験や、竹林などの自然環境を生かした子供達のアートイベントも、民間団体等との協働事業として取り組む。
- 森林資源を活かす新しい技術として開発された、木炭を原料にした炭の蓄電器の製造・開発の社会実験を開始。



草刈り作業後の記念撮影

有限会社 木村有機農園 (島根県雲南市)

- 平成11年より環境保全型農業に取り組み、中山間の環境を活かした農業、有機栽培等に取り組む。
- 新規需要米で高アミロース米を栽培し、100%米粉麺「田守り麺」を製造。製造特許も取得。販路拡大にも取り組む。
- 農家レストランと産直を2店舗開設。
- 島根県立農林大学のサテライト校として農業体験実習や視察研修を受け入れている。



産直市「よってごしな菜」

植田 輝義 (岡山県岡山市)

- 全身黄色を身にまとい、自称黄ニラ&岡バク大使として、メディア (TV、ラジオ等) に出演し、産地のPRに取り組む。
- 黄ニラ&バクチー取り扱い飲食店増加計画やイベント等を実施。
- 地産地消や学校給食への取組、支援学校、ケアハウス等と連携を強化し活動を展開。
- 個人事業主から農業生産法人 (株式会社アーチファーム) を設立。設立直後、西日本豪雨で被災したが、壊滅状態から復興。



全身黄色！自称黄ニラ&岡バク大使として活動

日生町漁業協同組合 (岡山県備前市)

- 毎年、アマモの繁殖期に花枝採取～保管 (葉や茎を海中で腐らせる) ～10月頃種を選別し播種する取組を継続。
- アマモ再生活動は、日生藻場造成推進協議会 (H21 設立) 124名で活動。
- 地元の小中学生や高校生、消費者団体との連携による体験活動を実施。
- 平成28年に「全国アマモサミット in 備前」を当地で開催。



日生藻場造成推進協議会のメンバー

菅 秀和（広島県尾道市）

- 営業活動を兼ねたブランディングの手段として小売り店や飲食店にワークショップやセミナー企画を提案。
- コロナ禍を踏まえ、ネット型農業学校の講師を受け、就農希望者へ自身の経験を通して、考え方や方法論を伝える。
- 規模拡大時のインシャルコストの問題を解消するために、レモンを使った商品開発や業態開発を飲食店や外食企業に提案。
- 微生物資材を多用した土作り等に取り組む。



観光複合施設でマルシェ企画提案

阿知須まち開発株式会社（山口県山口市）

- 地産地消パンの開発プロジェクトを企画。山口県オリジナル野菜を使用した、「はなっこりーの花パン」をはなっこりー生産者・養蜂家・パン職人・道の駅駅長の女性4人が中心となり開発した。
- 東京からリターンした若手女性和菓子職人と連携し、道の駅オリジナルの阿知須饅頭を共同開発。
- 地域の加工者や生産者の交流支援を実施。



開発した「はなっこりーの花パン」

萩酒米みがき協同組合（山口県萩市）

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。



酒米生産から醸造まで「オール萩阿武」ブランドのお酒

農事組合法人 ウエスト・いかち（山口県柳井市）

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。



女性部による農産物の加工・販売

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。



棚田アイス

塩飽部隊（香川県丸亀市）

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の実地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集まり、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人 You-Tuber による手島の動画配信中。



島民と京大生による竹林伐採

松山東雲短期大学しののめベジガール（愛媛県松山市）

- 愛媛県産品を使用した朝食レシピの考案。カゴメ(株)と連携した野菜スムージー・野菜スープを考案。また、野菜を使用したベジスイーツを開発。
- マルシェ等に出店し、野菜スープやベジスイーツの販売を通して食育に取り組む。
- 小学生の親子を対象に、大豆の播種から収穫の農業体験と、収穫した枝豆を使用したオリジナルレシピの調理を実施。



カゴメ(株)イベントで野菜・朝食摂取PR

愛媛県立丹原高等学校園芸科学科 GAP 班（愛媛県西条市）

- GAP 認証の取得に取り組む、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP 認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。
- GAP 認証取得による取引拡大と当校の PR のため、台湾への輸出に取り組む、生徒 20 名による台湾でのプロモーション販売を行った。



GAP 審査(現地調査)

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（愛媛県伊予市）

- びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。
- 農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。
- 他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。



子供食堂への参加
—地元農家との連携—

沢渡茶生産組合（高知県仁淀川町）

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が(株)ピバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。

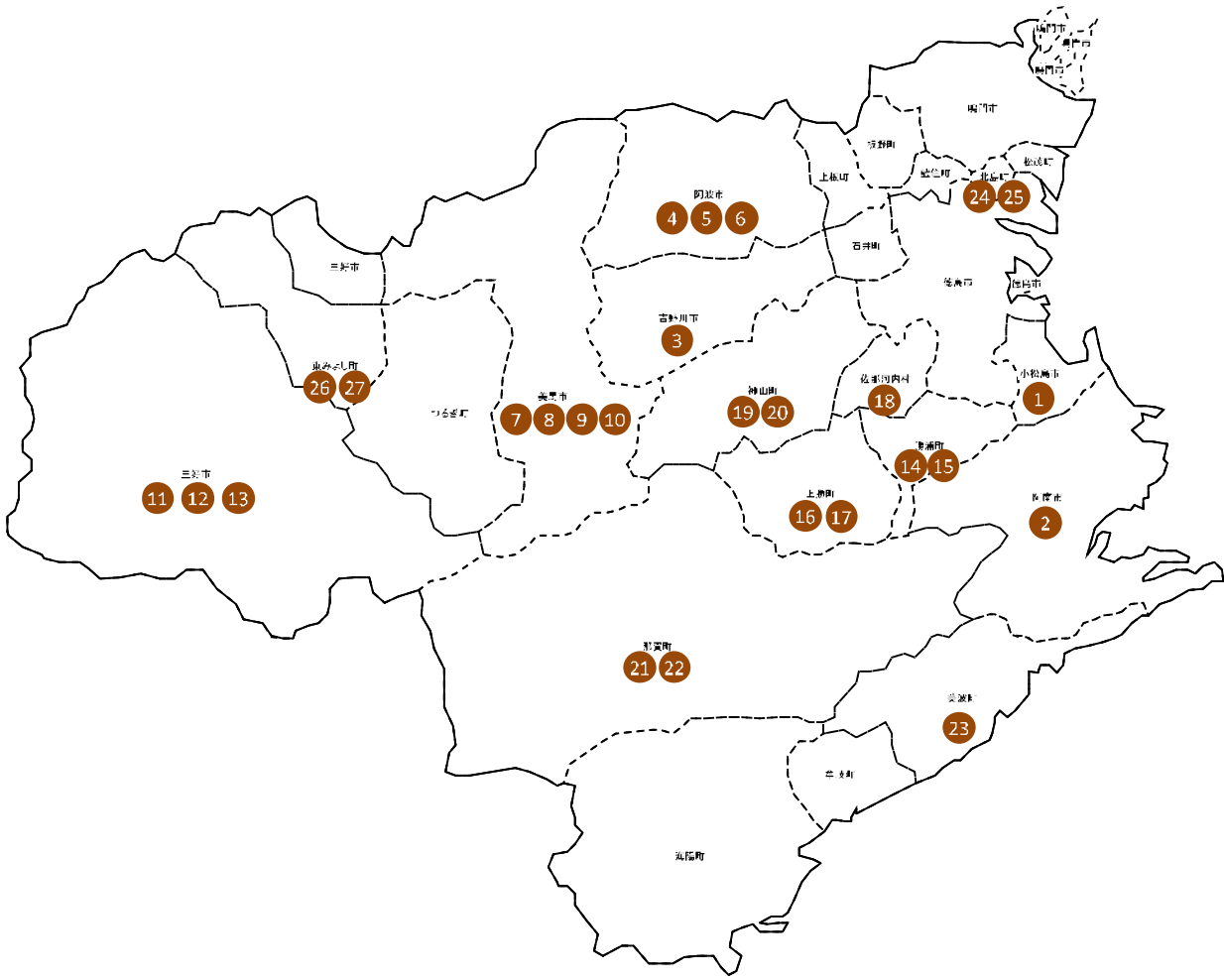


お茶摘み体験ツアー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定) 応募団体 一覧 (徳島県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	小松島市	和田島漁業協同組合女性部	農林漁業、農村文化体験	—	—
②		コミュニティ	阿南市	阿南市那賀川北岸地域広域保全協定運営委員会	環境保全・景観保全	伝統の継承	—
③		個人	吉野川市	高開 文雄	環境保全・景観保全	伝統の継承	高齢者の活躍
④		コミュニティ	阿波市	特定非営利活動法人 山の薬剤師たち	農福連携	—	—
⑤		コミュニティ	阿波市	吉野川善入寺土地改良区	環境保全・景観保全	—	—
⑥		ビジネス	阿波市	【準グランプリ受賞】 GOTTSO阿波	食育・教育	企業との連携	持続可能な農業に向けてのGAP取得
⑦		コミュニティ	美馬市	仕出原自治会	環境保全・景観保全	輸出	教育機関との連携
⑧		ビジネス	美馬市	山人の里運営委員会	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	雇用
⑨		コミュニティ	美馬市	西湖農産加工研究会	農林漁業、農村文化体験	6次産業化	教育機関との連携
⑩		個人	美馬市	吉田 ますみ	伝統の継承	食育・教育	教育機関との連携
⑪		コミュニティ	三好市	生活改善グループ有瀬つくし会	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	伝統の継承
⑫		個人	三好市	川内農園代表 川内 孟	農林漁業、農村文化体験	伝統の継承	高齢者の活躍
⑬		コミュニティ	三好市	社会福祉法人 池田博愛会	移住・定住	教育機関との連携	農福連携
⑭		コミュニティ	勝浦町	NPO法人 阿波勝浦井戸端塾	伝統の継承	—	—
⑮		コミュニティ	勝浦町	坂本グリーンツーリズム運営委員会	農林漁業、農村文化体験	雇用	学生・若者の活躍
⑯		コミュニティ	上勝町	かみかつ棚田未来づくり協議会	農林漁業、農村文化体験	企業との連携	教育機関との連携
⑰		ビジネス	上勝町	株式会社 阪東食品	6次産業化	輸出	企業との連携
⑱		コミュニティ	佐那河内村	一般財団法人さなごうち	移住・定住	高齢者の活躍	ふるさとと産品開発
⑲		個人	神山町	白桃 薫	食育・教育	移住・定住	農業の担い手育成と新規就農者の移住・定住
⑳		コミュニティ	神山町	(株)フードハブ・プロジェクト	食育・教育	移住・定住	農業の担い手育成と新規就農者の移住・定住
㉑		コミュニティ	那賀町	木頭杉一本乗り保存会	伝統の継承	—	—
㉒		コミュニティ	那賀町	木沢林業研究会	鳥獣被害防止	農林漁業、農村文化体験	伝統の継承
㉓		コミュニティ	美波町	特定非営利活動法人 赤松煙火保存会	伝統の継承	—	—
㉔		ビジネス	北島町	はーとふる川内株式会社	雇用	6次産業化	農福連携
㉕		コミュニティ	北島町	株式会社 なかのファーム	食育・教育	学生・若者の活躍	地産地消・地域活性化
㉖		個人	東みよし町	木下 正雄	ジビエ	農林漁業、農村文化体験	食育・教育
㉗		ビジネス	東みよし町	合同会社 法市の干し芋	食育・教育	移住・定住	6次産業化

応募団体位置図（徳島県）



1

こまつしま
徳島県小松島市農林漁業、農
村文化体験わだじま
和田島漁業協同組合女性部

～頑張る浜の女性部食堂「網元や」～



漁協女性部員



しらす・釜揚げ・ちりめんの三味井

経緯

- 衰退する和田島しらす漁業の危機感から、水産業の底上げと持続化を目指し、徳島県産ブランドである「阿波ちりめん・しらす」を活用した「しらす釜揚げ井」を漁食普及の社会実験として提供。
- この経験やノウハウを生かし、漁協女性部直営の食堂「網元や」を開店。

取組内容

- しらす加工場の遊休倉庫を活用し、徳島県内初の漁協女性部直営のしらす井を提供する食堂を運営。
- 「しらす・ちりめん」の消費拡大のための「改装計画・メニュー考案・PR情報発信・運営・管理」全て漁協女性部で行っている。
- 漁業者が直接消費者へ販売することにより、販路拡大や食の安全性のPRにつながっている。

活動の効果

- 多くの女性部員が運営に参加することにより、団結力や意識改革が図られるとともに、女性漁業者の第二の労働の場となっている。
- 鮮度の良いものを安価で提供することにより、来客数は年々増加している。
- 来客の増加により、漁村の活性化への核となる拠点としての役割となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

漁食を漁業者自ら提供することで、売上増加だけでなく、観光振興や外部からの交流増加につながり、漁村全体の活性化に寄与することを目標にしている。

小松島市和田島町字遠見85-259 Tel: 080-6287-8000

あなんしながわほくがん

阿南市那賀川北岸地域広域保全協定運営委員会

～みんなで守ろう地域の宝 農地・水・環境～



第5回ウォーキング大会(R1)



第4回舟のある広場まつり(R1)

経緯

- 用水路の老朽化とともに担い手の高齢化や後継者問題等に直面し、多面的機能支払交付金事業に取り組みこととした。
- 15の地域保全会の活動を進める中、環境の保全や景観形成を広域活動として取り組むことの利点に着目し、古き賑わいの復活や地域活性化を促進するための活動を開始。

取組内容

- 幹線沿い荒地をバックフォー、チェーンソー、人力を駆使し整備。後地にヒマワリやコスモスを植栽。
- 各地にコスモスを植栽し、3つのコスモス園を結ぶウォーキング大会を実施。
- 条件不利な遊水池を活動のシンボルとして整備。花しょうぶ開花時にあわせ「舟のある広場まつり」を開催。

活動の効果

- 荒地にヒマワリやコスモスを植栽することにより、景観地域に変貌した。
- 「舟のある広場まつり」は、地域伝統保存会や各種サークル団体の発表等があり、文化の保存、サークル活動披露の場となっている。
- イベントは、近隣地域だけでなく、新聞やテレビ等を通して県内全域に認知されるようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

人と地域をつなげる活動として、これらのイベントをさらに広げていきたい。また、環境保全活動を通じて地域活性化を推進していきたい。

たかがい ふみお

高開 文雄 (高開の石積み)

～石は宝？ 石と共に生き地域を活性化～



高開石積みライトアップ



高開文雄(石積み風景)

経緯

- 美郷は山間部の平野の少ない地域で、急峻な山の斜面を段々畑や宅地として活用するため石積みが発達。
- 専門家から、希少価値があると教示を受け、地域の活性化及び後世に残すために地域のNPOと共に活動開始。

取組内容

- 地元のNPOと協力し、毎年4月1日から20日間程、「高開石積み芝桜まつり」を開催。
- 2001年から、「高開石積みライトアップ」を開催。提灯を持って、石積みを歩き地域の人と交流するイベントを開催。
- 東京工業大学 真田准教授と協力し、石積みを全国に普及・指導する「石積み学校」を開催。

活動の効果

- 「高開石積み芝桜まつり」では、石積みと芝桜のコラボがいいと評価を受け、多くの県内外の人が訪れる。高開石積みが注目されることにより「美郷」の価値が向上。
- ライトアップイベントは毎年訪れる方も多く、交流の場になっている。
- 景観工学を軸とした「石積み学校」では全国から多くの参加者が訪れる。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

高齢のため積極的なイベント開催はできなが、現在の多くの活動は後継者を作り、後世に引き継いでいく。美郷の基盤となる地元の宝である自然を使うイベントを今後も行っていく。

やくざいし
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち

～幅広い対象者が継続して就農する農園～



高床式砂栽培ハウス新設



技術指導

経緯

- 全国的に農福連携の取組みが積極的に行われる中、就農したくてもできない障害者や離農する高齢者も多い。
- 幅広い層が就農できる環境を整備することにより、農福連携の取組が加速するだけでなく、活気あるまちづくりが可能となると考えた。

取組内容

- 初心者でも始めやすく、園芸によるヒーリング効果が最大限に期待でき、軽負担で儲かる農業として高床式砂栽培を行うこととし、ハウスを新設した。
- 見学会を開催。
- 体にいい美味しい野菜を栽培し、地元マルシェや大型ショッピングモールで販売。

活動の効果

- 障害者に就農してもらい、技術を取得してもらうことにより、障害者のみで栽培管理する自立型農園(3年計画)を目指している。
- 農福連携の必要性の説明や普及活動を行った結果、多くの方と交流することができた。
- 栽培した野菜を販売することで、地域の食に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携はそれぞれの分野が抱える課題にチャレンジする、今取り組まなければならないもの。地元農家さんと連携し、広く人のためになるものとして今後も取り組んでいく。

阿波市吉野町柿原字原194-1 Tel: 088-676-3380

5

あわ
徳島県阿波市環境保全・
景観保全よしのがわぜんにゆうじ
吉野川善入寺土地改良区

～後世に残そう宝の島～



善入寺島の全景



園児によるジャガイモ収穫風景

経緯

- 四国最長河川「吉野川」の中流域にある日本一の川中島「善入寺島」は、阿波市と吉野川市にまたがる総面積500haの島で、約350haが肥沃な農地となっている。年間を通して様々な野菜や水稲が栽培され、両市にとって重要な農業資産となっている。
- この「宝島」を農業のみならず、歴史、文化、景観、教育の場として次世代に継承していくため、活動を始めた。

取組内容

- 支障を来していた、農地の中の巨木を森林組合に依頼して伐採。点在している不作付地は一般市民と共同で除草。耕作しない農地には緑肥となるヒマワリやコスモスを植え美しい景観を演出。
- 島内にある「四国八十八ヶ所遍路道」への植花、除草を行う。
- 地元幼稚園児や小学生を対象に、野菜の植付けや収穫体験を実施。

活動の効果

- 美しい景観は、結婚式用の写真撮影や家族の憩いの場として多くの人に親しまれている。
- 約千二百年前に空海上人が開祖した遍路道を整備したことにより、気持ちよく巡礼できると、歩き遍路が増加している。
- 食育により子供たちの農業に対する理解が深まり、阿波市、吉野川市の給食センターで使用する多くの野菜がこの島から供給されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業の振興をメインに、四国霊場八十八箇所を巡る遍路道の中でも白眉の景観を誇る「善入寺島」を情報発信していく。

阿波市市場町市場字上野段737-1 Tel:0883-36-3240

6

あわ
徳島県阿波市

食育・教育

企業との連携

持続可能な農業に
向けてのGAP取得ごっつお あわ
GOTTSO阿波

《準グランプリ》

～野菜でまちおこし！若手農家たちの奮闘記～



2020年度のポスター



食育「美～ナス収穫中！」

経緯

- 農業後継者たちの「農家の力でまちを元気にしたい」という熱い思いでグループを発足。
- 自分たちの生き方やおいしい野菜をPRすることで、高齢化が進む農業を盛り返し、地域の役に立ちたいという思いで活動。
- 2012年、震災後の東京へ行き、野菜を販売したことが始まり。

取組内容

- 「野菜の力でまちおこし」を目標に掲げ、関西～関東まで野菜の出張販売や広報を幅広く実施。
- 「GOTTSO美～[®]ナス」を生産し、ブランド野菜として確立させた。美～ナスで食育も実施。
- 東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO美～[®]ナス」の納品を目指し、「グローバルGAP」、「とくしま安²GAP（優秀）」認証を取得。

活動の効果

- 出張販売や広報を幅広く行い、自らが「まちのPR隊」として活動し、地域の活性化に一役買っている。
- ナスが苦手な子供も多かったが、ナス好きの子どもが増加している。食育を通じ、子どもたちに野菜のおいしさや植物を育てる楽しさを伝えている。
- 多くの人と出会い、交流が生まれ、会員の視野はどんどん広がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

グループの強みは仲間同士で協力し新たな活動を行えること。若手農家を引き入れて、楽しみながら農業で儲けられるような「新たな農業」を目指していきたい。

阿波市阿波町東原173 Tel:090-3787-2756(寺井会長)

しではら
 仕出原 自治会

～清流穴吹川と自然を楽しむ人気のスポット～



清流穴吹川と「しでの家」



草刈り共同作業

経緯

- 八朔の産地仕出原集落は、少子高齢化、後継者不足、鳥獣害、耕作放棄地拡大等多くの課題を抱え、集落存続の不安があった。
- 各種支援制度を活用し、積極的に中山間地域の環境整備に取り組んだ。美馬市から「リバーサイドしでの家」の運営を委託され、村おこしの起爆剤とした。

取組内容

- 景観維持のため、集落が共同で安全対策や環境整備に取り組む。
- 伝統果樹の八朔(とくしま特選ブランド認定)は、EUへ輸出。
- 「しでの家」は夏場の川遊びやブルーベリー狩りの人気スポットとなっており、自治会が管理・運営を行っている。
- 農家が大学生を受け入れ、はっさく摘果等の農作業体験を実施。

活動の効果

- 八朔は輸出で知名度アップが図られ、ブルーベリー観光農園は好評を得て増園している。
- 「しでの家」の運営を通じ、集落と外部の人々との交流が深まり、協調性が醸成された。

応募団体からのアピール・メッセージ

他の多くの八朔産地は見切りをつけたが、昭和30年代から伝統の八朔を守り、逆に希少価値を高めた。「はっさくシャーベット」「栗アイス」は「しでの家」の名物となっている。農業体験を通じて、I・Uターンの受け入れと空き家利用も自治会で検討中である。

美馬市穴吹町口山字仕出原80 Tel: 0883-52-0468

やまんと

山人の里運営委員会

～里山体験で「山人(やまんと)」になろう！～



子ども会のピザ体験。地元食材もたっぷり。



首都圏大学生による農業体験。そば蒔き作業。

経緯

- 廃校した重清北小学校を地域イベントの場所として利用していたが、地域住民アンケートを実施した結果、「宿泊施設」として利用することとなり、施設整備を開始した。
- 「賑わいの灯を消したくない」「地元住民で守った思い出のある木造校舎を風化させない」その強い「思い」から、「山人の里運営委員会」が結成された。

取組内容

- 森林から採取した材料を使った「置時計」等の作成、農業体験、本格石窯で地元産の野菜を使ったピザづくり等、様々な体験メニューを展開。
- 宿泊施設は小・中・高・大学生の合宿・研修に活用されている。民間企業の長期滞在型利用も実施。
- 近隣の金比羅街道(峠道)周辺の里山保全活動を実施。

活動の効果

- 農業体験、林業体験、ピザづくり体験などの地域性溢れる体験メニューは、様々な来場者に楽しまれている。
- 大学の地域づくりに関する研究活動などが行われ、里山地域の新たな可能性モデルとして成果を上げている。

応募団体からのアピール・メッセージ

豊かな自然と、山間部で暮らすのに必要な様々な技術を有する「山人(やまんと)」の暮らしは、大変贅沢かつ豊かです。宿泊施設「山人の里」で様々な人との交流に繋がっています。

にしぶち

西瀨農産加工研究会

～和と和む天空の里「瀨名」～



農家レストラン「風和里」



学生のフィールドワーク

経緯

- 世界農業遺産に認定された「にし阿波」地域では、傾斜地農耕を行っている。
- 瀨名集落では、農産物を栽培するとともに、干し芋や干し大根などの加工も行っている。加工や栽培の共同化による農業経営の効率化や担い手の育成を図るため、平成25年に「西瀨農産加工研究会」を設立。

取組内容

- 甘藷・茶・イチジク等の剪定・収穫・加工等の作業を共同で取り組んでいる。
- 「にし阿波の傾斜地農耕システム」の日本農業遺産の認定等を機に訪問者に地元野菜料理を提供するため、平成29年農家レストラン「風和里」(ふわり)を開設。
- 大学生や高校生の校外学習活動を積極的に受け入れている。
- 集落でのお茶の栽培と「瀨名茶」を使った商品開発にも取り組んでいる。

活動の効果

- 農作業等を共同で取り組むことにより、作業の効率化が図られている。
- 農家レストラン「風和里」は地域内外の交流促進や地域のPRに繋がっている。
- 加工品や農産物が世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証商品の認定を受け、加工品や地域の認知度などの付加価値が向上している。

応募団体からのアピール・メッセージ

農家レストランと農家民宿が連携し、インバウンドを含めた観光客の誘客拡大により地域住民との交流を進め、瀨名集落やにし阿波の関係人口の拡大を図る。

美馬市穴吹町口山瀨名385 Tel: 0883-56-0550

よしだ
吉田 ますみ

～手のひらの茶葉を豊かな農文化と伝統に～



二と八代表 吉田ますみ



地元の穴吹高校生徒とのフィールドワーク

経緯

- 瀨名地区にUターンをしてカフェを開業。そこから茶畑保全活動等を行うグループ「二と八」が生まれた。
- 「世界農業遺産認定地域・美馬市穴吹町瀨名地区で生まれた自然からの贈り物を子供たちの心に繋げたい」という想いで、2018年から活動開始。

取組内容

- 耕作放棄地となっている茶畑再生と、集落のブランディングプロジェクトに取り組む。
- 地元高校とのフィールドワークを年間6回実施。傾斜地農法の圃場での農業体験も実施。
- 地元高校生や外国人ボランティアなどにも活動に参加してもらい、緑茶に関わる人々を増やし、活動を通して感じたものを発信している。

活動の効果

- 年間6回の地元高校生のフィールドワークは、延べ100名以上の参加となった。
- 茶畑保全活動への参加者は年々増加。
- 試作を重ね、商品開発を行い、商品化。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

活動を通して瀨名という地域、世界農業遺産の地域を広く認知してもらいたいと考えている。瀨名集落に来てもらい、地域のブランド化を行い地域との結び付けをこれからも行っていきたい。

あるせ
生活改善グループ 有瀬つくし会

～何も無い所で何かを見つけてお帰りください。～



楽校(がっこう)の宿「あるせ」の全景



世界農業遺産に認定された有瀬地区の急傾斜地

経緯

- 休校中の旧有瀬小学校を利用し、何か活動を行おうではないかという提案に賛同した者により「生活改善グループ有瀬つくし会」を結成。地元で古くから作られていた味噌、豆腐、コンニャク、そば等を製造し、各種イベントでの出張販売に取り組んでいた。
- 平成27年4月、廃校が決定した校舎を借り受け、民宿楽校(がっこう)の宿「あるせ」を立ち上げた。

取組内容

- 山間部に位置する有瀬地域の食文化の再生と伝承のため、遊休農地30aを開拓し、原材料となるそば、コンニャク玉、大豆等を生産。これらを使用した味噌、石豆腐、コンニャク、祖谷(いや)そばを作り、民宿楽校の宿「あるせ」で提供。
- 国際ボランティアを受入れ、農業体験や里道の整備、石豆腐やコンニャク製造等の体験を実施。

活動の効果

- 平成30年3月、「にし阿波の傾斜地農耕システム」が世界農業遺産に認定された。また、当地域にはラフティングのメッカとしても有名な清流吉野川が流れており、美しい景観や伝統的な農業・農法を体験しようと、国内外からの観光客が後を絶たない。楽校の宿「あるせ」の利用者も増えている。
- 人口80人足らずの山村で外国人も含めて年間約1000人を超す交流人口は村の活性化に十分寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

楽校の宿「あるせ」を中心に、傾斜地農業の体験や国際交流等を深め、地域の歴史や文化を国内外の人々に理解してもらいたい。

三好市西祖谷山村有瀬414番地1 Tel:0883-84-1337

かわうち はじめ
 川内農園代表 川内 孟

～自然が生んだ奇跡のフレーバー「天空ノ山茶」～



夫妻と急傾斜地の山茶



天空ノ山茶製品

経緯

- 山城町上名地区では、標高300m以上の急傾斜地で自生種の茶を栽培。
- 平成26年、「日本茶AWARD2014」で、自然農法と希少性が評価され、うまいお茶部門審査員奨励賞を受賞。
- 受賞を機に、昔ながらの茶づくりそのものが「地域の宝」になると感じ、「地域ブランド」としての販路拡大と、活性化に繋げる取組みを始めた。

取組内容

- 昭和30年から60年以上も栽培している自生種の茶葉(多様な個性もつ)を原料に使用し、自然にブレンドされた香り高く味わい深いお茶、「天空ノ山茶」を製造販売。
- 肥料は山のカヤ等を敷き詰めるのみで、農薬を一切使用しない昔ながらの「自然農法」で栽培。地域内で協力し合いながら、茶摘みを行っている。
- 山茶は他の茶葉と区別するため、製茶工場の協力を得て、単独で製茶している。

活動の効果

- 三好市の大步危・祖谷地域は、インバウンドを含む観光客が増加しており、それに伴い、周辺の道の駅等の施設でも販売は増加している。平成30年の販売量は、平成25年の4倍となっている。
- 令和元年7月には、「三好やまびこふるさと会」により「三好の逸品」の登録商品に認定され、「三好の逸品アンテナショップ」において商品販売が出来るようになった。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

高齢化が進む山あいの地域だが、地域ぐるみで「にし阿波地域の世界農業遺産」としての傾斜地の景観維持と農業所得向上につなげていきたい。

いけだはくあい
社会福祉法人 池田博愛会

～みんなが主役の生涯活躍まちづくり～



農福連携 ごうしゅういも植え付け



移住希望者とのそば打ち交流

経緯

○「菜の花プロジェクト」というエコ・リサイクル活動に参加したことがきっかけで、障がい者が主役になり農業を通じてプロジェクトの一躍を担うと共に、未耕作地の再利用による地域貢献や、地域の子供たちや住民と連携して食育や生産のあり方、成長し収穫する喜び、協働の目的を達成するために活動を始めた。

取組内容

- 近隣住民と障がい者、職員が協力し合い、菜の花やそばを播種、刈り取り、乾操作業を実施。地元の小学生とそば打ち体験で交流。
- 菜種は障がい者が選別、搾油、瓶詰めし、三好市のアンテナショップで「里の雫」として販売。
- 地域創生事業として展開している地域交流拠点とことんの里の商品として、サツマイモの製品化を研究中。

活動の効果

- 地域住民や小学生、関係者と共に障がい者が仕事を行うことで、地域住民(子供～大人)の正しい理解を得るだけでなく、障がい者の工賃の向上や、自己肯定感の向上に繋がられている。
- 生涯活躍のまちづくり事業の一端を担うことで、過疎化が進む社会に歯止めをかけ、地域の活性化に繋げるための一役を担っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の魅力の発信と地域住民が輝ける取り組みなど、障がいを持つ人もない人も皆が主役となり、どのライフステージでも生きがいを持ち、活躍できる町づくりを行っている。

あわかつらいどばたじゆく

NPO法人 阿波勝浦井戸端塾

～グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり～



ビッグひな祭り



恐竜の里 イグアドン親子

経緯

- 勝浦町は中山間地域で基幹産業は「貯蔵みかん」であるが、昭和56年の寒凍害により壊滅的な被害を受け、長年町がひっ塞する状態が続いた。
- ふる里勝浦の再発見と町の活性化を目指し、平成3年「新とくしま県民運動推進」の認定を受け、「勝浦町・地域づくり井戸端塾大会」を開催し、活動を開始した。

取組内容

- 家庭で飾られなくなった「雛人形」を全国から集め、供養して飾る「ビッグひな祭り」を開催。
- 雛人形を30カ国を超える外国の方々に贈り、国際交流を図っている。
- ひな祭りを継続するうち、隣接地に産直「よってネ市」と道の駅「ひなの里かつら」が開設された。
- 平成6年、恐竜の化石が発見され「恐竜の里づくり」に取り組んでいる。

活動の効果

- 産直市と道の駅では、ひな祭りの期間中、特産の「貯蔵みかん」の販売が増加し、大きな経済効果をもたらしている。
- 「恐竜の里づくり」では、「恐竜ウォークラリー」を開催し、参加者は年々増加している。

応募団体からのアピール・メッセージ

「ビッグひな祭り」がマンネリ化しないよう新たな発想と創造で取り組み、インバウンドを積極的に取り込みたい。また、「恐竜の里」を中心として、自然の中を恐竜がかっ歩する「恐竜博物館」を目指す。

勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬35-1 Tel: 0885-42-4334

さかもと
坂本グリーンツーリズム運営委員会

～廃校を拠点に過疎地域を盛り上げ！～



若者の力でひな街道イベントを盛り上げ



激坂に挑戦する「さかもと坂道マラソン」

経緯

- 平成11年、地元小学校が廃校となり、地域の衰退が危惧された。
- 町が廃校舎を「農村体験宿泊施設」に改修し、地元が運営することで、平成14年、施設が開業。
- 住民有志が当団体を設立し、活動を開始した。

取組内容

- 廃校を活用した「ふれあいの里さかもと」を拠点に、地元高齢者が指導して「農村体験事業」の実施や地産地消の「田舎料理」の提供を行っている。
- ひな祭りイベント「ビッグひな祭り」と連携したイベントの開催や特産品の温州みかん栽培講座等に取り組んでいる。
- 若者の参画が得られ、「坂本元気ネットワーク」を結成。「さかもと坂道マラソン」の開催等若者が賑わいを創出。

活動の効果

- 県内外から町人口の5千人を大きく上回る年間利用者があり、地域の活性化につながっている。また、女性を中心に60人以上の地元スタッフを雇用している。
- 「坂本ならではの」文化や産業の継承・振興に取り組むことにより、地域住民の連帯感を高めるとともに、町の活性化、イメージアップにつながっている。
- 若者が地域の活性化に関心を持ち、主体的に行動している。

応募団体からのアピール・メッセージ

「ふれあいの里さかもと」は、町の最奥部に位置しながらも、町になくてはならない存在となり、町のイメージアップにも貢献するなど、「廃校活用」のモデルとなっている。



かみかつ棚田未来づくり協議会

～コロナに負けない新たな棚田の元気づくり～



棚田アイス



ウェブ棚田談議所

経緯

- 平成23年度全国棚田サミット開催をきっかけに、上勝町4地区で活動開始。
- 過疎高齢化のため、単一地区での棚田保全・活性化活動の推進は困難なため、連携して活動。
- 平成24年度より「棚田感動ビジネスプロジェクト」、平成29年度に「棚田未来づくりプロジェクト」開始をきっかけに、当協議会を設立。

取組内容

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。

活動の効果

- 「棚田50の冒険」の冊子制作に若手人材1名が新たに参加。
- 徳島空港内での「棚田アイス」の販路を獲得。販売の見込みができた。
- 「ウェブ棚田談議所」は28回開催し、累計参加者は203名となり、新たな関係者の獲得につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「棚田未来づくりプロジェクト」は、過疎高齢化がすすむ棚田集落で、交流活動促進による元気な集落の持続や集落居住をめざします。また、新型コロナウイルス感染症の影響により活動方法を見直して取り組んでいます。

17

かみかつ
徳島県上勝町

6次産業化

輸出

企業との連携

ばんどう
株式会社 阪東食品

～本物は心を動かす～



JAかいふ実生ゆず搾汁風景



フランス展示会でお客様と

経緯

- 柑橘の栽培・加工を行う両親を手伝うため、輸入車ディーラーから転職。
- 国内中心の営業活動だったが、海外志向もあり四国の山奥の個人事業者が海外でどこまで通用するのか挑戦してみたかった。
- JETROの輸出セミナー等に参加した際、上海での商品販売を勧められたことがきっかけ。

取組内容

- 自社農園で柑橘と発酵茶の栽培から加工まで行う。
- 県内の農家やJAからも果実を購入して加工・輸出を行っている。
- 上海・香港の展示会に参加し、2012年、はじめて上海にぽんずを輸出。
- すだち・ゆこう果実を買取して搾汁し、ヨーロッパを中心に12カ国以上で業務用として流通させている。

活動の効果

- それなりに成果も出始め、県内のゆず農家からの買取量は2009年と比較して約8倍になった。
- JAかいふから相談があり、JAかいふの実生ゆず果実を買い取りし、当社で搾汁して海外専用ラベルを作成し、2020年よりフランスに輸出を始めた。

応募団体からのアピール・メッセージ

当社の販売努力により、微力だが付き合いのある農家や阪東食品・阪東農園に関わっている人たちの所得向上・モチベーションUPに繋がるとともに、畑や山の景観保持にもつながり、社会貢献できればとの思いが強くなってきた。

勝浦郡上勝町大字生実字上野63-1 Tel: 0885-46-0822

一般財団法人 さなごうち

～徳島県唯一の村を未来へつなぐ～



移住空き家相談の様子



さなごちそう便り

経緯

- 本村は徳島県の東部に位置する、美しい自然と農村の原風景を有する、約1000年の歴史を持つ徳島県最後の村である。
- 地域の暮らしを守り、地域に伝わる生業・暮らし・文化・景観・コミュニティを将来の世代に継ぐことを目的に、平成28年佐那河内村が地域運営組織として当法人を設立。

取組内容

- 空き個人商店を改修した地域交流拠点「新家」を開設。カフェスペース、サテライトスペースを兼ね備えた事務所で地域交流支援センターを運営。日替わりシェフによる「村ランチ」を提供。
- 平成30年よりお試し移住施設「幸家」を開設。
- 地域資源を活用したふるさと産品を開発。「さなごちそう便り」を発行し、村で活躍する人々の生業や暮らしを紹介している。

活動の効果

- 平成29年より移住及び空き家の相談窓口業務を村役場から地域交流拠点「新家」に移設することにより、より多くの人々が気軽に相談できるようになった。
- 「幸家」は佐那河内の暮らしを体験しながら、物件探し等できる機会を創出している。
- 「村ランチ」は家庭の味が楽しめるという好評で、ランチを提供する者も佐那河内の食材を使ったおもてなしができると、やりがいを持てた。

応募団体からのアピール・メッセージ

役場や地域との連携を強化し、移住・定住・交流の促進に関する活動やふるさと産品の開発等を今後も発展させていく。

しらもも かおる

白桃 薫

～地産地食 育てる、つくる、食べる、つなぐ～



白桃 薫



地域の食材をたっぷりを使って作られる料理

経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、取組を始めた。

取組内容

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受け入れを実施。
- 子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

- 地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
- 「地産地食」で地域を育て、地域で食べる食を支え、若者が日々の農作業や料理に打ち込む姿が、地域の人々の協力意識を変え始めている。
- 農地情報や食材の提供など様々な協力連携体制ができてきた。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

農業の高齢化や食文化の継承は、日本全国の中山間地域の課題であり、フードハブという考えを広め、様々な地域でそれぞれの課題解決の糸口になるよう協力していく。

名西郡神山町神領字本上角173 Tel:088-676-1011

(株)フードハブ・プロジェクト

～地産地食 育てる、つくる、食べる、つなぐ～



地域の人々でつくる加工品の開発・製造



地域の人々で農業や食文化を次の世代につなぐ

経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、地産地食に取り組む(株)フードハブ・プロジェクトを設立した。

取組内容

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受け入れを実施。
- 子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

- 地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
- 農業高校に農家、料理人、加工品製造者などの人的リソースを提供し、魅力ある学校づくりを教員の方々と共に担っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業研修生を地域に根付かせていくため、技術的な指導、農地の斡旋を進めていく。また、子供達が、将来この町で農業や食に関わる仕事に興味を持ち、始められる環境づくりをしていく。

きとうすぎいっぼんの
木頭杉一本乗り保存会

～みんなでガロになろう！～



大会風景



大会風景(近影)

経緯

- 古くから木頭杉の産地である木頭地域では、バラ流しと呼ばれる一本ごとに流す方法で木材の搬出を行っており、そこから丸太の一本乗りの技能が生まれ、トラック輸送に変わる昭和30年後半ごろまで行われていた。
- 一本乗りの技術の伝承と地域おこしのためにイベントとして復活させた。かつての一本乗りの名残りが伺えるのは全国で唯一となる。

取組内容

- 一本乗り大会や講習会を実施。
- 乗れた距離に応じて10級～1級、名人ライセンスが与えられる。
- 大会2ヶ月前から毎週講習会を実施し、参加者の技能向上、伝承を図っている。
- 毎年、地元中学生への体験講習の実施や、大学生や各種団体からの体験教習の依頼も積極的に受け入れている。

活動の効果

- 「木頭杉一本乗り大会」は、他に類を見ない大会で、県内はもとより県外から毎年100人程度の参加者があり、夏の恒例イベントとして定着してきており、地域外の人との交流の場となっている。
- 地元中学生への体験講習により、大会に参加する生徒が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

イベントのみによる広がりだけでなく、林業との連携、地域の活性化につなげていきたい。また、保存会の会員が高齢化しており、若手の育成、確保にも努めたい。


 きさわ
木沢林業研究会

～山のお宝を活かす～



白皮剥ぎ作業は人の手で丁寧に仕上げる



食害のひどい山地で他団体との交流植林体験

経緯

- 那賀町では20年ほど前からニホンジカの食害が増え、防護対策を取らなければならなくなった。ミツマタだけ食害にあっていなかった。
- 1万円札の原料であるミツマタの90数%が輸入されていることを知り、国産ミツマタの生産に取り組むこととした。
- 加工は軽作業のため、年齢を問わずに行えるので、地域の活性化に繋がると考えた。

取組内容

- ミツマタの研究にゼロから取り組み、自生ミツマタの原木での出荷を始める。ミツマタの造林地作りにも取り組む。
- 苗木づくり・下刈り・補植・除伐・収穫と一連の作業を行うとともに、ミツマタ加工倉庫を建設し乾燥させた黒皮を出荷。
- 白皮剥ぎ作業まで取り組むと同時に加工・交流施設を建設。
- 植栽したミツマタが収穫でき、効率の良い収穫・皮剥ぎ・乾燥の方法や、質の良い状態で保存する方法の研究に取り組んだ。

活動の効果

- 新商品の流通にも成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする機会が増えた。
- 耕作放棄地などへの植栽にも取り組み、那賀町が日本一のミツマタ生産地となった。
- 地域の人たちと会話しながら作業をしたり、県外へ視察に行くことは高齢者の方々の活力となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

1万円札原料の半分以上が国内産ミツマタとなるよう活動していきたい。
 新商品(藍染ミツマタなど)の開発にも力を入れ、老若男女を問わない幅広い雇用を実現し、地域の活性化と所得向上を目指したい。

那賀郡那賀町沢谷字井元34 Tel:0884-65-2022

あかまつえんか

特定非営利活動法人 赤松煙火保存会

～できたん どしたん 吹筒花火～



吹筒を藁縄で化粧する作業



神社での奉納風景

経緯

- 美波町赤松地区は過疎化と高齢化が著しく約200年続く伝統ある吹筒花火の作り手が減少。その製造技法の衰退と赤松神社への奉納花火の継続が危惧されていた。
- 平成7年、有志により「赤松煙火保存会」を設立。平成25年、「赤松煙火保存会」を持続可能な団体とするため、NPO法人として再構築。

取組内容

- 五穀豊穡と家内安全を祈願し赤松神社に奉納される吹筒花火は、15の花火組ごとに製造技法が異なり秘伝とされ、花火の美しさを競い合う。
- 各種イベントでの吹筒花火の実演を通して花火の魅力を発信し、伝統文化への理解を深めてもらう活動を実施。
- 花火工場の見学会、花火免許の取得奨励、事故防止のための保安教育などの活動に取り組む。

活動の効果

- 伝統の吹筒花火は、地域住民による手作りの花火、共同作業を通して、住民相互のコミュニケーションが図られ、地域の活性化にも繋がっている。
- 秋まつりに帰省する人達や地域外から花火の観覧に来る人も増加し、例年700人から800人の観覧客が訪れる。

応募団体からのアピール・メッセージ

約200年の伝統がある吹筒花火は、地元の住民が手造りすることに特徴があり、点火され燃焼する花火の下を若者が「できたん どしたん」の掛け声とともに、勇ましく駆け巡る、全国の伝統花火の中でも珍しい風習です。

海部郡美波町赤松字総屋敷146-1 Tel:0884-79-3325

かわうち
は一とふる川内株式会社

～障がい者(チャレンジド)の力を農業に～



農園で働く社員



ノウフクJASマークが貼付されたトマト

経緯

- 大塚製薬株式会社の特例子会社として障がい者雇用を進めいたが、知的障がい者へ十分な業務を提供することができていなかった。
- トマトの生産・販売を手掛けるグループ会社から農業の提案があり、障がい者雇用農園を設立。障がい者とともにトマトの生産と販売を開始した。

取組内容

- 障がい者の新規職域開発としてハウストマトの生産・販売に取り組む。
- 障がい者就労支援センターと協業し、トマトの栽培・加工・販売の全てを障がい者が行う6次産業化に取り組む。
- 「とくしま安² GAP農産物」認証を取得し、安全な職場整備と安心安全なトマトを市場に提供。
- ノウフクJAS事業者の認証を取得。ノウフクJASマークを貼付したトマトの販売を開始。

活動の効果

- 4名の知的障がい者の雇用から開始し、新規雇用を増やし、現在は7名を雇用している。
- 個々の障がい特性に応じた支援や指導を行うことで、職業人として農業に従事できるようになってきた。
- 障がい者就労支援センターと協業することにより、農福連携—6次産業化が実現できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

ノウフクJAS認証と農福連携等応援コンソーシアムや農福特例子会社連絡会への参画を通して、全国的な農福連携を推し進めていきます。

株式会社 なかのファーム

～世界初 食べる御札で田舎にもインバウンドを！～



地域活性化・北島町やなると金時のPR活動/イベント出店



世界初「食べる御札」
四国霊場第二十二番札所平等寺コラボ商品

経緯

- 四国・徳島には観光コンテンツとして四国八十八箇所のお遍路という文化的にも素晴らしいものがあるが、全国の観光ランキングではほぼ毎年最下位付近に位置。
- 素晴らしい観光コンテンツを徳島の特産品とユニークな商品開発やプロモーションで盛り上げたいと取組開始。

取組内容

- 徳島県の特産品「なると金時」を契約農家より直接仕入れ、オリジナルのお菓子に加工し、付加価値をつけて販売。
- なると金時を使用したお菓子で世界へ発信出来る商品として「食べる御札」を開発した(題字は平等寺住職に依頼)。
- 「食べる御札」は、インバウンド向けに英語版ポスターやフライヤーを作成し、外国人にもPR。

活動の効果

- 地元徳島県産なると金時を使用したスイーツの販売は年々増加している。
- お菓子のPRのためイベントに出店。来客数は年々増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「食べる御札」をPRしていき、より多くの方に世界初「食べる御札」(英語名: LUCKY COOKIE)を知ってもらいたい。

きのした まさお

木下 正雄 (徳島県農林漁家民宿 うり坊)

～やまびこが響く農家民宿 うり坊～



「うり坊」の代表者 木下さん



農園における「だいこん」収穫作業体験

経緯

- 高齢化や人口減少が進む当集落に賑わいを取り戻したいという思いから活動開始。
- にし阿波地域の伝統的な傾斜地農耕や文化に対する理解を促進し、当地の活性化や文化の継承・保全ができればとの思いも活動のきっかけ。

取組内容

- 都会の学生が周辺の農家に出向き、「傾斜地農耕」の農作業を体験。
- 狩猟罟の見回り体験やシカやイノシシの解体作業の見学、狩猟体験を実施。
- 急傾斜地で栽培した野菜や蕎麦を使った料理やジビエ料理を提供し、地産地消をはじめとする食育に取り組む。
- 大学生と地元住民らによる当集落の課題解決に向けたワークショップを開催。

活動の効果

- 都会の学生たちに世界農業遺産に認定された傾斜地農耕を体験してもらうことで、集落の景観や伝統食文化、先人の知恵等を残していくことに繋がっている。
- 狩猟体験から、「食べる」ということは動物たちの「命をいただく」ことであると理解し、それに対して感謝する気持ちを実感してもらえた。
- ワークショップでは、地域の課題解決に向け、熱心な討論が繰り広げられた。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

世界農業遺産に認定された傾斜地農耕等を体験し、この地域の独特の景観や伝統、食文化、先人の知恵と工夫に溢れた田舎暮らしを実感してもらいたい。

ほいち
合同会社 法市の干し芋

～限界集落 法市の挑戦！～



ブランド商品法市の干し芋ほいちも



地元中学生との干し芋体験

経緯

- 世界農業遺産認定地である法市集落では、古くから干し芋の生産販売が行われていたが、過量包装・廉価販売という商習慣が根強く、適正価格での販売が出来ていなかった。このことが集落衰退の一因になっていると考えた。
- 所得の確保、集落の存続のためには、適正価格での販売が必要不可欠であり、ブランディング・販路開拓を進め、地域資源の6次産業化に取り組むことを決めた。

取組内容

- 30代～40代の女性を「干し芋」のターゲットに、ブランディング。産直や卸販売を中心に販売していたが、昨年からインターネット販売に取り組む。
- 中学校への出前授業、干し芋製造体験を実施。
- 営農を核とした集落の再生を目的に、地域住民で集落活性化組織を設立。
- 本年度、ECサイト販売で集落の野菜とコラボ販売した、ハタ・法市集落のおすそわけショップを開設。

活動の効果

- 本年はコロナの影響により卸販売が80%減少したが、インターネット販売が10倍以上となり、売上のカバーができた。
- 体験授業の受入等により、法市の認知度アップにつながった。
- 「集落活性化組織」では、鳥獣害対策勉強会や芋生産による耕作放棄地の利活用を行い、景観維持と活性化に繋がっている。
- 集落住民が生産した1次産品を弊社が加工・販売を行うことにより、集落の所得向上が図られている。

応募団体からのアピール・メッセージ

関係人口を増やす取組でも十分集落は元気になれる。関係人口の増加と販路開拓により集落の活性化に努めていきたい。